

令和4年度第2回春日井市観光・にぎわい創出推進会議議事録

1 開催日時 令和4年10月24日(月)午前10時00分～午前11時50分

2 開催場所 春日井市役所南館4階 第3委員会室

3 出席者

【会長】名古屋国際工科専門職大学工科学部 教授 佐藤 久美

【委員】名鉄観光サービス株式会社商品事業本部商品開発部 副部長 福井 佳代
株式会社新東通信クリエイティブ本部 プロモーションプランナー

水野 香代

春日井商工会議所 副会頭

岡部 清次郎

一般社団法人春日井市観光コンベンション協会 会長

水野 隆

公募委員

水谷 忠成

公募委員

田本 雅子

【オブザーバー】

愛知県観光コンベンション局 観光振興課長

水上 俊貴

一般社団法人愛知県観光協会 専務理事兼事務局長

榊原 仁

【事務局】産業部 部長

森本 邦博

経済振興課 課長

金子 幸治

課長補佐

鈴木 公博

主査

柴田 知宏

主事

渡邊 優気

【計画策定支援業務受託事業者】

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社(MURC)

政策研究事業本部名古屋本部研究開発第1部(名古屋) 主任研究員

小森 清志

研究員

吉田 夏稀

【傍聴人】 4名

4 議題

- (1) 春日井市観光によるにぎわい創出基本計画（最終案）について
- (2) 計画策定後の推進体制について

5 会議資料

次第・委員一覧・座席表

資料1 春日井市観光によるにぎわい創出基本計画（最終案）

6 議事内容

議事に先立ち、市長、会長挨拶、配布資料の確認等を行った。

(1) 春日井市観光によるにぎわい創出基本計画（最終案）について

【事務局金子】 (資料1に基づき説明)

(2) 計画策定後の推進体制について

【事務局金子】 (説明)

(3) 意見交換

【水野(隆)委員】 資料1 P36 施策3-1の推進体制の構築について、商工会議所が抜けているが問題ないか。

フィルムコミッションに関する記載はどうか。春日井を舞台にした映画が出てきているので、どこかに位置付けておいた方がよい。

【岡部委員】 中小企業の経営者が多く協力しているため「商工会議所」と掲載した方がより協力しやすい。

【事務局金子】 「関係機関、民間事業者、市民等」に含んでおり、P40には「春日井商工会議所」と記載している。掲載の仕方は事務局で検討する。

【佐藤会長】 フィルムコミッションについては、例えば、P34の施策2-1に入れるのはどうか。映像による観光推進はロケーションツーリズム等、各地で力を入れて取り組まれている。

【事務局金子】 フィルムコミッションについては、前回から具体的には記載しておらず、シティプロモーション計画の中で位置づけられているため整理して検討する。

【福井委員】 P34の施策2-1で概要に「インスタグラム」とあるが取組例に「インスタグラム」が抜けているので、追加したほうがよい。若者の中ではインスタグラムの利用が圧倒的であるため、積極的に取り組んでいただきたい。

【佐藤会長】 若い世代でのインスタグラムの利用は本当に浸透している。インスタグラムで映えるか否かで行き先を決めるほど重要な観点となっている。

【水谷委員】 P40に推進体制が記載されているが、各団体には情報発信をすればある程度伝達できるが、春日井市民が取り残されないように、春日井市は観光でにぎわっていくということ伝えていく必要がある。

【佐藤会長】 市民自身は自分がどう関われば良いのか分かりづらいため、市民が

主体となる観光であることを伝える一文を追加できると良い。市民が関わりやすくなるように、各組織が情報発信をして行くことが重要である。

【事務局金子】 来年、春日井市は市制 80 周年を迎える。この機会を活かし、情報発信を実行していきたいと考えている。文章の追加は検討する。

【岡部委員】 P32 の施策 1-6 について、いかに人材を見つけ、育てるかが重要である。「2 「春日井にぎわいづくり隊」の結成」に商工会議所も入れていただきたい。「4 春日井観光ガイドタクシードライバーの人材育成」とあるが、春日井市にはバス会社が 3 社あるので、バスガイドの人材育成も必要だと感じる。バスガイドは春日井市のことをほとんど知らないのではないか。

【事務局金子】 商工会議所の追加については検討させていただく。

【佐藤会長】 名所旧跡だけではなく、日常の紹介も観光客には面白いと思ってもらえるため、地域に精通したガイドがいると良い。バスガイドは各企業での育成となってしまうが、ボランティアガイドの可能性があるのでないか。

【岡部委員】 春日井市は通過されることが多い。知識があれば春日井市のことを宣伝してもらえる。

【佐藤会長】 ボランティアガイドに関する記載はあったか。

【事務局金子】 P32 に記載している。

【福井委員】 春日井市は通過することが多い。受入れ側になる場合は、地域のボランティアガイドが活躍することになるが、通過する場合はバスガイドが各地の情報を話す。しかし、バスガイドが参考にする教本に春日井市の情報はほとんどないと思われる。バス会社やバス協会に対して、通過する際に話せる春日井市の情報を提供すると良いと思う。

【事務局金子】 市でバスガイドを教育することはできないが、各事業者で活用してもらえる情報の発信は市として取り組んでいくべきだと考える。

【水谷(隆)委員】 P32 からの施策 1-6、1-7、1-8 だが、春日井市には海外の方が多く住んでいる。外国人向けのツアーを企画しては良いのではないか。

【佐藤会長】 在住外国人向けのツアーは、自分の住んでいる地域を知ること、好きになって、働き続け、住み続けることに繋がるため、重要な取組である。疎外感を感じている外国人は多いため、地域の人たちとの触れ合いや、魅力を知ること、春日井市で住むうえでのルールを理解することもできる。春日井市にも国際交流協会のように国際交流を推進するセクションがあるので、連携すると良いと思う。市民が市内に

住む外国人を知る機会にもなる。

【岡部委員】

外国人は仲間意識が強く、他のコミュニティと馴染みづらいため、難しいことではあるが、多文化共生の推進に繋がると良い。「春日井にぎわいづくり隊」にも外国人を取り込んでいけると良い。

【佐藤会長】

外国人ならではの春日井市の良いところも面白い視点になる。イベント等の際には、企画の段階から外国人も巻き込むことで、主体的に関わってもらえることが出来る。アクションプランの中で取り扱っていききたい。外国人との接点が最も多いのが日本語教室である。観光とは少しずれるが、災害時に力になってもらえるのは日本語教室の先生である。観光客にとって災害時どうすれば良いかを考える際に連携できると良い。また、イスラムは今後人口が増えるため、連携が重要である。国際という視点が足りなかったと思う。選ばれる地域をつくることができるかどうか重要で、計画にすぐに入れられなくても、将来的に取り組んでいけると良い。

【水野(隆)委員】

春日井市民である外国人を地域コミュニティに取り込む必要がある。

【水谷委員】

春日井市には区長町内会長連合会があるが、そこで各町の魅力を出し合ってもらえると良い。

【佐藤会長】

コロナ禍で歩く人が増えているため、各地域のマップがあると良い。アクションプランの一部として検討していただけると良い。

【水野(隆)委員】

「書のまち」の関係で「小野道風」はもっと推さないのか。小野道風の生誕地論争があるので、そのようなことを取り上げると面白いと思う。

【佐藤会長】

計画内には、「小野道風」とフルネームで入れた方が良いと思う。

【水野(香)委員】

副題を加えていただいたが、計画内に関連する記載がないので、追加したほうが良い。例えば P28 の内容とはマッチするのではないかな。

【佐藤会長】

締めくくりとして、P40 の推進体制にも追加して良いと思う。

【田本委員】

外国人に取材をしたが、なかなか人や文化と関わる機会が無いと聞いたことがある。外国の人との触れ合いが春日井では少ないと思うので、市民側の意識も変えていけると良い。

【佐藤会長】

春日井市民の外国人も、市民として認識しておくことが重要。そのような方が春日井を好きになって、春日井に住み続け、次の世代の主体となれば、地域発展につながる。お互いに支えあえるような社会の実現に、観光が活用できると良い。

【岡部委員】

計画期間は 5 年間だが、5 年間が適切か疑問。不確実性の高い時代

なので、中間見直しをしないと時代についていけないのではないかと。

【佐藤会長】 計画としてはあまり短いと適していないため、具体の取組の中で検証していくことは重要。

【事務局金子】 計画期間は5年間とし、KPIによるフォローアップや検証等を実施していく予定である。外国人など、本日出てきた新たな視点を含めて、具体的な取組については、引き続き議論をしていく。

【福井委員】 P20、P21、P27 に春日井の地域資源が書かれているが、地域資源として「書・サボテン」と記載としてしまうと独自性が際立たないため、説明文を入れると良いのではないかと。

【佐藤会長】 デザインはどうなるのか。図表の中に一部字が小さくて読みづらいものがあるため文字は大きくしていただきたい。

【事務局金子】 現在デザイン案は作成中。文字は読みやすくする。

【榊原オブザーバー】 表紙の副題ができて良いと思う。本編で出てこないため取り上げられると良い。

国際関係が無いというのも共感した。

P40 の計画の推進体制について、「オール春日井」と言うのは良いが、春日井市内で観光を進めるのか。他との連携・協働はどう考えていくのか。また、市民は何をするのか具体的な役割が見えてくると良い。役割がイメージできるとアクションプランに繋がる。

5年間のアクションプランにはスケジュールがあると思うが、P36の推進体制の構築とP40の関係性が良く分からない。ちぐはぐにならないように整理していただきたい。

P27 で主たる地域資源が書かれているが、対象とした理由が分かる情報に補強する必要がある。「春日井三山」とあるが知らない人には説明があったほうが良い。

【佐藤会長】 P40 の体制で、責任の所在がぼやけてしまうと良くない。市民や大学の役割と言うよりは、ご協力をお願いする記載が適している。

【榊原オブザーバー】 春日井市のこれまでの取組を書いたほうが良い。

他市では、タクシーボランティアをやっている。タクシー協会が主体となって勉強会をして連携している。

春日井市のマラソン大会は多くの人に参加している。国際大会となるとさらに人が多く来るようになる。名古屋国際女子マラソンは、一般の部と競技の部で分かれており、一般の部では写真を撮ってもらったりしている。その点では朝宮公園を活用しない手はない。

【水上オブザーバー】 P40 の推進体制について、市内の関係機関のみではなく、姉妹都市

との連携などを入れておくことは良いと思う。

愛知県ではマラソンのゴールに観光ブースを設ける等して積極的にPRした。マラソンと観光の連携も図ることができる。

P24 に記載されている観光資源の磨き上げをしっかりとしていただきたい。そのうえで、愛知県としても旅行商品の素材集としてまとめてモデルコースとして検討したい。

都市間交流については、今後の検討事項となる。

【佐藤会長】

近隣都市との関係は重要であるため、市内だけではなく市外とも情報交換をして進めていただきたい。

【田本委員】

P24 に「地域性を活かした」と追加していただいたが、これだけでは伝わりづらい。

推進体制のなかで、春日井市民でないと参加できないと交流を阻むことになるため市外の方も気軽に参加できると良い。個人個人のつながりが生まれ、個人レベルでも他市との連携ができると良い。

【佐藤会長】

春日井市には、2005 年の愛知万博の際に、映画を作るというプロジェクトで頻繁に訪れていた。当時、現市長にもご協力いただいた。大学では、現在学生主体の短編映画の作成をしている。映像による発信も視野に入れていただければと思う。

SDGs の観点も重要で、ヨーロッパでは SDGs の取組がされているところが選ばれる。SDGs の取組を PR していくと意識の高い観光客が集まってくる。GX (Green Transformation) も意識して観光を進めていただけると良い。

【事務局森本】

様々なご意見を頂いた。本日のご意見は尊重し、全体のバランスを見ながら反映したいと思っている。

短期的に取り組めるものもあれば、長期的に取り組んでいくものもある。また、予算の必要なものもあれば、必要ないものもある。

計画期間は5年だが、情勢に合わせて柔軟に取り組んでいきたい。

今回で春日井市観光・にぎわい創出推進会議は最終回となるが、今後ご助言、ご協力よろしく申し上げます。

上記のとおり、令和4年度第2回春日井市観光・にぎわい創出推進会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席委員のうち1名が署名する。

令和4年11月17日

会 長 佐藤 久美

署名人 福井 佳代